

(別紙4)

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200266
法人名	社会福祉法人 隠岐共生学園
事業所名	グループホームいこいの家
所在地	隠岐郡隠岐の島町栄町1076-1
自己評価作成日	平成22年1月9日
評価結果市町村受理日	平成22年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyohou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成22年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームいこいの家は周囲を緑に囲まれた高台に位置し良い立地環境にあります。
敷地内にある畑では利用者を師に、野菜作りを行い、その成長を楽しみ、収穫して職員とともに調理をおこなったり、花作りを楽しんでいます。
日常生活においては、その人らしい生活環境の設定や生活を重視し、穏やかな生活が出来るように支援をしています。又、残存機能の活用のため、本人の生活歴を重視し、回想法の活用から何を求めているのか、何ができるのか、本人や家族の意向を尊重しながら日々ADLの低下、QOLの向上に本人と職員と同じ目線で取り組んでいます。又、家族や地域の関係者と連携を取りつつ地域との繋がりを重視しています。グループホームを生活の拠点としている利用者は笑顔や穏やかな表情で日々の生活を送っています。安心して安全な生活が継続出来るよう職員が一丸となって支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主体である社会福祉法人関係の施設が林立する中にホームはあるが、民家や集合住宅にも隣接しているため、畑で挨拶したり、ホームを訪れて会話やお茶を楽しんだり町民とも日常的に交流している。地域のお祭りへの参加や図書館、文化館などへの外出や買い物などホームに閉じこもることなく生活している。運営推進会議では、地域住民や行政関係者が参加してホームが地域の中にとけ込んでいく生活を進めようと取り組むとともに、町役場との関係作りにも心がけている。利用者は、民生委員など、外部者にふれる機会も多く、意見や要望が言える環境づくりにも、勤めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、業務の実践が出来るように事業所内に理念の掲示を行なうとともに人事考課制度の中で基本姿勢の基本事項の着眼点として掲げて実践の確認を行い、又、フィードバック等で管理者と共有している。又、新任職員にも周知できる様に研修をおこなっている。	地域の人とともに歩んでいくという理念は、新任研修で確認し、業務検討会やミーティングで復唱し、職員全員の理解と実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや文化祭等には、積極的に参加している。また、学生のボランティアの訪問、地域の婦人会や団体等の民謡の会や舞踊の会の訪問等があり、地域との交流を深めている。	直近では、御礼際に利用者が参加し、露店で買い物をしたりする中で、なじみの人々との交流を楽しむなど、普段と変わらず地域での生活を楽しんでいる。	婦人部の慰問が定期的にあり、家族や戦友が畑で親しく会話したり、散歩途中での地域住民とのふれあいを大事にするなどの暖かい関係作りが今後も継続することを望む。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症に関する事、事業所での暮らし方について質問を受ける事が多々あり、認知症についての症状や支援の方法を話し、地域の方々に理解をして頂けるよう取組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域代表者や行政関係者で定期的に開催を行なっている。事業所の現状を報告し、会議で提案のあった事項は検討を行ない、サービスの質の向上に取組んでいる。	定期的に行われる運営推進会議では、利用者の状況の変化に合わせた、ケアのあり方や、必要な福祉用具についてなど身近な議題も取り上げられている。	利用者にとって地域が身近に感じられて充実した生活ができるような課題を設定してゆくことで、継続した話し合いがもてるような運営推進会議を今後も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修会や、介護教室などへの参加を通して連携を行い、運営推進会議でもサービスの取組みを報告しながら、助言を得たりと協力関係を築いている。	行政と職員は、顔の見える関係を築いており、日常的に利用者についての話し合いや事業所のあり方などについての検討がなされている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会、事業所での身体拘束廃止検討会の組織の指針に基づいて対応している。業務検討会において、日常的なケアが身体拘束に該当しないか等常に検討を行っている。玄関の施錠は行っていない。	普段行っているケアや家具の配置などが身体拘束に該当していないかを職員会議やミーティングなどで具体的に検討をしており、気づいた点は改善に向けて取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて職員全員が正しく理解し、具体的な援助行為について常に検証しながら、人権擁護と高い倫理性を持ったケアの実践を継続してゆかれることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、施設の研修会、地域の研修会において「施設における高齢者虐待・身体拘束・事故対策防止策・事故発生時の対応」等の研修が数回開催され学ぶ機会を得ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業該当者の入所があり、現在成年後見制度申請中である。社会福祉協議会の担当者和その都度連携を図り勉強中である。また、業務検討会でも話し合い、制度に関しての理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、介護報酬等の改定時に、契約内容及び重要事項説明書に基づいて説明を行い、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、利用者・家族と話し合いの場を設け意見や要望を聞き、業務検討会で検討を行ったり、第三者委員会の方が2、3ヶ月毎に来て、利用者及びご家族の意見や要望に対応しサービス等に反映させている。	ホームを訪れる民生委員などが、利用者の意見をくみ取って職員に伝えており、運営に活かされている。家族や関係者が事業所を訪れた際に、利用者の思いや家族の意見をうかがい、運営に反映されている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、業務検討会やミーティングにおいて、職員の意見を引き出すように努め、意見や提案はその都度検討を行ない業務に反映させている。	職員は、非常勤やパート勤務、また、新任や若年者においても、職員会議やミーティングにおいて、意見を出しており、それが活発に検討されて、運営や業務の改善に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等は法人の人事考課制度で反映させ、職場環境においては職員衛生委員会で検討を行ったり、各自が向上心を持って業務を遂行出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの評価は人事考課制度で力量の把握を行い、事業所内外で開催される研修は、なるべく多数参加をするよう促している。又、専門職としてのライセンス取得に働きかけを行い、専門職としてのレベルが保てるような取組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス事業所交流会が開催され同業者との交流、勉強会が実施されている。 また、隠岐地区老人福祉施設協議会開催の研修会等に参加し、各グループホームの職員が交流したり意見交換や勉強を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーの事前の情報を基に、本人の日常生活や性格、身体状況等を把握している。事業所に本人、家族に見学に来て頂き、信頼関係を築き利用開始にサービスの相違が生じないよう努めている。		

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報を基に対応が出来るように準備を行なっている。 利用時には必ず家族の思いや要望等を尊重し実践するようにして信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時の計画書作成時に本人・家族の意向を尊重し必要としている支援内容を織り込むとともに本人に必用な他のサービスの利用が必要であれば対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアや支援の目線を同じ位置から捉え本人に何が必要なのか、何を要望しているのか同じ家庭内で一緒に暮らしをしている者として理解し、共に暮らしている者同士としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら家族の面会を促したり、本人の思いを家族に伝えたり、日常の支援を家族と共に行っていけるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問で昔からの知人や友人に会ったり、事業所に来て頂いたり、馴染みの関係が継続できるように努めている。又、地域の行事に出かけたり、墓参り等の希望がある時には一緒に行くなどして一人一人の生活を支援している。	利用者の関係者や、退職した職員が、利用者の好みのものを持参して、親しく語らうなど、関係の継続が自然に行われている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話したり、気の合う人と話したり、音楽やゲームを通じて利用者同士の関係がうまくいくよう配慮している。職員も間に入り、潤滑油の役割ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了（他施設等へ移動）しても家族からの相談や情報を大切に経過のフォローを心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、常に声かけをするよう心がけ、本人の思いや意向を把握するように努めている。本人の意向が困難な場合は日常生活の中から見つけたり、家族からの情報も得るようにして意向の把握に努めている。	入浴時に利用者がリラックスしたときに、会話の中から、さりげなく意向や思いをくみ取るなど、本人の気持ちを大切にしながら、適切な機会を捉えての把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のケアマネージャーからの情報や自宅を訪問したり、利用者のこれまでの生活環境、趣味、思いなどを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去の生活を理解し、一人ひとり一日の過ごし方や本人が何ができるのか本人の小さな動作や心理面を見逃さないように情報を共有している。		

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を尊重しながら、関係者で本人にとって何が優先なのかを見極め介護計画を作成している。 モニタリングについては、随時行い確認・改善を行っている。	ホームでの生活がなじんでくるにともなって、職員全員で随時モニタリングするとともに、状況が変われば、それに合わせて、適切に計画の変更が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にファイルを作成し、食事、排泄等の身体状況、またその日の精神状況など日々の暮らしの様子を記録している。それらはいつでも職員が閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の様子に応じて変化するニーズに対応し、何が現在本人に必要なのかを常に意識し、職員間で検討を行い、柔軟な対応が出来るような取り組みをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との接点を見出すようにし、地域の婦人会や学生等のボランティアに来て頂いている。 又、公営の図書館を利用して、本の貸し出しをして利用者の方に楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医に受診をしている。受診、通院はできるだけ本人や家族の希望に応じて柔軟な対応に努めている。家族に同行して頂いたり、その都度報告したり相談を行なっている。	認知症の方は、自ら正しく症状などを訴えないこともあるため、精神科医とも連携を密にしながら、本人、家族の望む医師への受診ができるよう個別に支援している。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日午前と午後にバイタルチェックを行い、身体状況の把握を行っている。異変等があった場合は、併設施設の看護師に連絡し協力を仰いだり、訪問看護師に連絡を行い適切な受診や看護がうけれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には頻回に訪問を行い、主治医、看護師、家族と連絡をとりできるだけ早期に退院できるよう情報交換や相談を行っている。入院時に連絡方法等を主治医や看護師との面談により関係づくりを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族及び関係者と重度化や終末期について意志等の確認を行い、隣接の他サービスの利用等本人・家族の意向を含めて地域の関係者とともに情報の共有を行ないながら支援に取り組んでいる。	看護体制がないことから、本人、家族とは法人全体として対応できることを説明した上で、重度化や終末期のケアのあり方については、入所時から話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策等のマニュアルを活用し業務検討会で周知徹底を行っている。消防署などの応急手当の研修会等には、できるだけ多くの職員が参加し初期対応が出来るよう研修を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を定期的に実施している。毎月小規模訓練を行い、避難通路の確認や消火器の点検など実施している。運営推進会議で行政や地域の代表者と防災について話し合い協力をお願いしている。	法人全体での非難訓練を定期的に行うだけでなく、毎月、利用者を変えた自主訓練を行なっている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時は声かけやノック、カーテンの開け閉めに気をつけプライバシーの確保を徹底している。業務検討会においても職員の意識向上を図り、日常の関りの中でプライバシーを損ねていないかを常に意識しながら対応している。	排泄や移動、食事などで、援助が必要なときも、職員側の都合ではなく、まずは、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の理解力やコミュニケーション能力に合わせた話かけを行い、本人の思いや希望を引き出すように働きかけを行っている。常に主体性を尊重し、本人が自己決定できるような働きかけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や思いを尊重して、個別的な過ごし方をして頂くようにしている。入浴時にも本人の状態により、時間の変更を行ったり、食事時間の変更等1日の本人のペースを大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中でも行事等でメリハリをつけている。その時に応じての服装の支援や、整髪については希望があれば馴染の美容院に行ってカットやパーマをしてもらっている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リンゴの皮むき、テーブル拭き、食器拭き等調理や片付けは利用者と一緒にしない楽しい食事の雰囲気作りを演出するようにしている。大根、葱、金時豆等、グループホーム菜園で採取を一緒に行なったり、家族から届いた野菜等を一緒に楽しみながら調理を行なっている。	職員と利用者は同じテーブルで、和やかな雰囲気です食事が出来るよう努めている。準備や片付けも、利用者とともに行われている。	その日のメニューから利用者と相談しながら決めて、買い物、調理など、食事への関心をさらに、引き起こすような工夫を今後も期待したい。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の協力で食事残量チェック表や水分チェック表を使い、個々の食事量、水分量を把握している。バランスの取れた献立の提供を受け、それに基づいて採取した野菜等の材料の変更を行い、一人ひとりの嗜好を尊重し、バランスの取れた食事と脱水予防を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	隣接施設での口腔ケアの研修会や地域の研修会には積極的に参加するよう努めており、職員が口腔ケアの重要性について認識するようにしている。毎食後の歯磨き等を声かけして、習慣づけるようにし口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の使用で排泄のパターンや排尿、排便の内容等の把握を行い、自力で排泄を継続するよう、時間置きにトイレ誘導を行っている。歩行介助や車椅子介助で残存能力の活用をしながら排泄介助を支援している。	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大切に、職員も同じトイレを使用しながら、汚れた場合はさりげなく掃除している。パット交換なども、羞恥心に配慮して、自室で行うこともある。促しの声かけも他の利用者にそれと悟られないよう、さりげなく行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては食物繊維の多いメニューを取り入れるよう工夫している。日中は身体を動かすよう体操や音楽を使った運動を取り入れている。主治医にも相談を行い常に指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者のその日の希望や身体状況、精神状況を考慮しながら入浴を行なっている。介助が必要な方には、安全面に気を配り、その人に合った介助用具を工夫して入浴を行っている。	入浴したい日や時間は、利用者の希望に合わせている。入浴は大切なコミュニケーションの時間と捉え、利用者の思い出話などをゆっくりと聞く機会とする等、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、日中はできるだけ作業療法、体操、音楽療法など活動の場を多くしている。その場合も、一人一人の体調や表情等に気を使い、休息を入れるよう配慮している。眠れない時には、居室やロビーで一緒に過ごして安定した気持ちになるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、効能効果、その薬に対する注意事項等を閲覧し、全職員が理解するようにしている。業務検討会で薬の処方変わった場合は内容について話合っている。状態変化があれば、直ぐに医師に報告する体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等考慮し、調理や食事の片づけ、洗濯たたみ、畑作り、お花作り等各自が得意の力を発揮出来るよう働きかけている。それは利用者同士、職員とのコミュニケーションを深める場になっており、笹巻き作りやおやつ作りなど、職員にも昔の行事や慣わしを楽しみながら教えて頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に花見や祭り見学、紅葉見学などを計画したり、利用者の希望に応じてドライブや買い物に出かけ、外出する機会を多く作っている。墓参り、自宅、故郷訪問等柔軟に対応している。車椅子利用者にも、家族等の協力を得てできるだけ希望に沿うように対応している。	ホームの周辺への散歩は、日常的に行われている。買い物や、催し物へのドライブなども、利用者との話し合いの中から、行き先をきめるなど、戸外へ出掛けることを積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピング等で買い物の値段を考えたり、品物を見極めたり、可能な限り金銭の取り扱いを本人が出来るように支援している。		

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人が電話をしたい時は、事務所の子機を居室まで持参し、他の方に気を使わずに話が出来るようにしている。手紙や季節毎のはがき等を出す場合は書き方等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディールームは常に季節の花や観葉植物、利用者の作成した掲示や展示を行なっている。天井のプロペラで空調調整し、冬には椅子式の炬燵を使い家庭的にくつろげ居心地よく過ごせるように工夫をしている。	季節の花や外の光、食事の匂いや、地元の民謡などと、利用者の五感にほどよい刺激になるような配慮がみられた。	食堂や居間は一体的なつくりで、全てが視界に入りやすく、多少の圧迫感がある。椅子やテーブル、ついたてなどを工夫するなど、落ち着いてくつろげるスペースづくりなどにも、取り組みを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を検討し、利用者が一人で過ごしたいときなどにも配慮している。利用者同士で歌ったり、お茶を飲む機会も随時設け、その時の状況を勘案し、一人ひとりの居場所作りを行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、使い慣れたものや好みの家具を置いている。家族と一緒に写った写真などを飾ったり、本人がくつろげて居心地のよい居室になるよう配慮している。	利用者とともにしつらえられた居室は、寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれており、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置や入浴時の衣類の場所、食事の準備など張り紙を使って誘導したり、電源コンセントの注意やテレビの位置等災害時を考慮し、安全で事故の無いように取り付け自立と安全に工夫を行なっている。		